観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月２９日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	公益財団法人佐世保観光コンベンション協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 長崎県佐世保市、長崎県北松浦郡小値賀町	
所在地	長崎県佐世保市	
設立時期	2003 年 4 月 1 日(2013 年 4 月、財団法人から公益財団法人へ移行)	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間	
職員数	21 人【常勤 20 人（正職員 10 人・契約職員 11 人・出向等 0 人)、非常勤 0 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 辻　宏成 （出身組織名） （株）西九州倉庫	令和 5 年 6 月 1 日に観光地域づくり法人（登録 DMO）公益財団法人佐世保観光コンベンション協会の理事長に就任。 行政、事業者、地域、学術機関との様々なパイプ役を担っている。残念ながら不認定にはなったが、特に IR の誘致活動に尽力してきた。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 辻　英樹「専従」 （在籍組織名） （公財）佐世保観光コンベンション協会	観光地域づくり法人（登録 DMO）公益財団法人佐世保観光コンベンション協会の常務理事兼事務局長。事務統括責任者。 佐世保市役所入庁後、観光セクションに 14 年間従事し、西海国立公園「九十九島」の観光振興及び利用拠点の整備推進をはじめ、観光プロジェクトを多数担当した後、7 年間他分野行政を経て定年退職。令和 7 年度から佐世保観光コンベンション協会の常務理事兼事務局長を務める。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 宮地　秀郎「専従」 （出身組織名） （公財）佐世保観光コンベンション協会	観光地域づくり法人（登録 DMO）公益財団法人佐世保観光コンベンション協会の事務局次長兼事業部長。観光客の誘致セールス、ワンストップ窓口、収益事業、広報 PR、広告、商品開発、地域づくりの責任者。佐世保市の観光施設ハウステンボス㈱で企画、営業、広域連携事業、マーケティングなどの業務を担当していた。現在、事業部内の事務を掌理する。
国際担当部長兼事業部誘致宣伝課長	（氏名） 下澤　周「専従」 （在籍組織名） （公財）佐世保観光	国内外の誘致セールス、プロモーション、宣伝活動の中心的な役割を担う。

様式１

	コンベンション協会	総合商社で 34 年間、国際ビジネスに従事。その間 10 数年にわたり、中国･台湾の 6 都市に留学・駐在の経験を持ち、現地事情に精通している。
事業部企画課課長 旅行商品の造成・販売責任者、責任者、観光地域づくり責任者	（氏名） 松尾　麻美「専従」 （在籍組織名） （公財）佐世保観光コンベンション協会	「海風の国」佐世保・小値賀観光圏事業の専従。観光地域づくりにつながる活動、当区域の商品造成、ワンストップ窓口、収益事業の中心的な役割を担う。 入社前、佐世保市観光課、国体推進室において、主にグルメ観光振興を担当。
事業部総務課課長 総務・経理の責任者	（氏名） 寺岡　香奈枝「専従」 （在籍組織名） （公財）佐世保観光コンベンション協会	DMO の総務・経理の責任者。入社前、地場鉄道会社の旅行部門にてカウンター業務や手配業務担当として従事。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	①佐世保市 経済部観光課 その他、連携する部署名及び役割 佐世保市地域未来共創部地域政策課（離島振興、合併地域の振興） 佐世保市地域未来共創部若者活躍・未来づくり課（移住・定住推進） 佐世保市地域未来共創部地域交通課（二次交通対策） 佐世保市文化スポーツ部文化国際課（文化振興） 佐世保市土木部土木政策課（道路整備） 佐世保市都市整備部まち整備課（景観形成） 佐世保市都市整備部公園緑地課（公園整備） 佐世保市経済部商工労働課（産業振興） 佐世保市経済部ふるさと物産振興課（物産振興） 佐世保市農林水産部農政課（農業振興） 佐世保市農林水産部水産課（漁業振興） 佐世保市環境部環境保全課（自然環境保全） 佐世保市教育委員会社会教育課（社会教育） 佐世保市教育委員会文化財課（文化財の保存活用） 佐世保市港湾部みなと整備課（港湾・海岸保全計画） 佐世保市港湾部クルーズ事業推進室（クルーズ船の受入） 佐世保市企画部ＩＲ対策課（特定複合施設（IR）対策） 佐世保市行政経営改革部ＤＸ推進室（ＤＸ推進） ②北松浦郡小値賀町 産業振興課 その他、連携する部署名及び役割 産業振興課（農業団体との調整、事業立案） 産業振興課（漁業団体との調整、事業立案） 産業振興課（町営渡船の運航調整） 建設課（建設事業の積算・見積） 教育委員会学芸員（歴史民俗資料の活用、事業立案）	
連携する事業者名及び役割	１．　小値賀エリアのワンストップ窓口 ・NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会 ２．　宿泊事業者 ・佐世保旅館ホテル協同組合	

	３．　交通事業者 ・西肥自動車㈱ ・佐世保市タクシー協会 ・九州旅客鉄道㈱ ・松浦鉄道㈱ ・佐世保旅客船協会 ４．　観光･文化施設事業者 ・させぼパール・シー㈱ ・ハウステンボス㈱ ・公益財団法人佐世保地域文化事業財団 ５．　商工、農林水産業事業者 ・佐世保商工会議所 ・小値賀町商工会 ・ながさき西海農業協同組合 ・佐世保市水産振興協議会（圏域に所在する６漁協） ・一般社団法人佐世保物産振興協会 ・させぼ四ヶ町商店街協同組合 ・佐世保三ヶ町商店街振興組合 ６．　教育機関 ・長崎国際大学 ・長崎県立大学 ・長崎短期大学 ７．　地域金融機関 ・十八親和銀行 ・九州ひぜん信用金庫 ・西海みずき信用組合 ８．地域団体 ・一般社団法人宇久町観光協会 ・NPO 法人黒島観光協会 ・江迎活性化協議会 ・合同会社　欒 ・みかわちの魅力あるまちづくり実行委員会 ・俵ヶ浦半島開発協議会 ・チーム俵 ・SASEBO まち元気向上委員会 ・一般社団法人 REPORT SASEBO ・万津 6 区 ・一般社団法人高島活性化コンベンション協会 ・株式会社ミライステラス ・佐世保朝市運営委員会 ・未来の佐世保朝市を考える会 ９．各種イベント等の実行委員会 ・YOSAKOI させぼ祭り実行委員会 ・佐世保 JAZZ 実行委員会 ・SASEBO JAM FESTIVAL 実行委員会 ・きらきらフェスティバル実行委員会 ・させぼシーサイドフェスティバル実行委員会 10．その他 ・一般社団法人佐世保青年会議所

	・佐世保商工会議所青年部 ・株式会社 FM させぼ
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	（概要） ①「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進協議会 最高意思決定機関として、佐世保市長・小値賀町長・おぢかアイランドツーリズム協会理事長・佐世保観光コンベンション協会理事長からなる、「海風の国」観光圏推進協議会を設置。 ②「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会 同協議会の決定を推進するため、官民の多様な関係者が参加する「海風の国」推進委員会を設置。 ③「海風の国」佐世保・小値賀観光圏戦略会議 同推進委員会の方針･戦略の策定にあたる各推進部門の連携協議、情報共有を行う戦略会議を設置。
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	（地域住民の理解と関与） 多様な事業者、地域住民参加のワーキンググループや協議会を開催し、景観形成やトレイルルートの造成、プログラム造成など意見交換を行っている。また、地域住民・行政・DMO・地域づくり実践者の他、交通機関や観光事業産業従事者らが一丸となった取組みであることの理解促進を図るため、海風の国交流会を開催している。 【取組事例】 ①俵ヶ浦半島エリア：俵ヶ浦半島活性化協議会によるトレイルコース造成～地域づくり（H25-R4） ②小値賀エリア：小値賀町の地域住民による観光看板作成ワーキング（H27-28）、定例進捗会議（R5-R6）、一丁目一番地モデルコース造成（R6） ③「海風の国」交流会の開催（R5） ④海風の国観光マイスター、子ども観光マイスター（H27-R6） ⑤「海風の国」ネットワーク交流会の開催（R6） ⑥佐世保・小値賀観光圏観光地域づくりマネージャー戦略会議の開催（R6） ⑦地域の体験事業者の体験商品集約・ブランディング「海風旅。Experience」（R2-R6） ⑧江迎エリア：ガイド育成事業（R4）、花で彩る活きた町並みナイトコンテンツ開発事業（R5） ⑨鹿町エリア：自然を体感する周遊コンテンツ開発事業（R6） ⑩世知原エリア：アウトドア資源を活用した滞在コンテンツ開発事業（R5-R6） ⑪高島エリア：高島の一般社団法人高島活性化コンベンション協会との連携（R5-R6）、高島における漁業等を活用した体験コンテンツ開発事業（R5-R6） ⑫まちなかエリア：戸尾市場での食べ歩きイベントの開催（R4-R6） ⑬万津エリア：朝市でのイベントの開催（R4-R6） ⑭三川内エリア：窯元創作場見学ツアーの造成（R6） ⑮日本遺産特別公開ツアー造成事業（R6） ⑯観光ワークショップ「明日の佐世保を考える」の開催（R6） （宿泊施設の魅力向上）

	実践的な講演会やセミナーを中心に継続開催しており、多くの宿泊施設に参加をしていただいている。リゾート、ビジネス問わず主たる滞在エリアの宿泊施設では滞在拠点として役割を担っている。 【取組事例】 ①地域の案内として海風の国ガイドブック設置及びフロント等での観光案内（H26-R6） ②講演会・講座・セミナー（H25-R6） ③観光圏限定旅行業者代理業登録/5 施設（H27、H30） ④黒島地区宿泊施設（民宿・旅館）の専門家による改善点など検証（H28） ⑤地域素材組込み宿泊プラン造成促進の為の施策 ・海風の国観光素材・体験プログラムカタログ制作（H28-R6） ⑥宿泊施設品質認証制度「サクラクオリティ」説明会（H29-R4） ⑦感染症対策認証制度「team NAGASAKI SAFETY」実施（R2-R4） ⑧既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業（R4-R6） ⑨ホテル旅館協同組合、観光課、コンベンション協会の定例会議（R3-R6） ⑩マーケティングレポートセミナーの開催（R5-R6）
法人のこれまでの活動実績	**【活動の概要】** 佐世保市及び周辺地域・関係団体との緊密な連携のもとに次の事業を行うことで、観光振興ひいては地域経済の活性化に寄与してきた。 観光地域づくり 圏域が広域にわたるため、地域特性を基にブランドを構成する 11 のエリアに細分化し、ブランドコンセプトの周知・浸透、ブランドコンセプトに基づく滞在交流プログラムの構築、人材育成等の圏域全体における取組みを実施。その中で特に、江迎・三川内・黒島・九十九島・まちなか（佐世保市中心市街地））を重点地区に設定し、5 つの地区について圏域全体を牽引するモデル地域として位置づけ、観光客受入体制の整備等に住民参加型で取り組んでいる。 ・暮らすように旅をする、小値賀島（小値賀） ・海人の風待ち浦、宇久。（宇久島） ・208 通りの風が生まれる多島海の大自然。（九十九島南部） ・“花群れる”祈りの島　黒島。（黒島） ・多島海に揉まれ鍛われた、心優しき漁師たちの浦々。 （九十九島北部、高島、相浦、小佐々、鹿町） ・もてなしの時を重ね心を束ねた笑むかえ。（江迎） ・浦々に恵みをもたらす、豊穣の里山。（吉井、白岳高原、世知原、柚木） ・世界一の名声を得た、小さき皿山。（三川内） ・昔人の対峙と交流の面影、早岐の瀬戸。（早岐、宮、ハウステンボス） ・理に適い、情に適った東郷さんの佐世保港。（俵ヶ浦半島、高後崎、針尾島） ・近代日本の生き証人、港まち佐世保。（佐世保市街地）

事業	実施概要

様式１

	情報発信・プロモーション	・【H26-R6】ハウステンボス連携事業 ハウステンボスと九十九島などの他、佐世保市内の観光素材を面で訴求することにより、それぞれの魅力が相乗効果を図る。 ・【H27-R6】ツーリズム EXPO ジャパン 専用ブースを使った広報 PR・素材説明・観光情報提供等による誘致活動。 ・【H29-R6】九州 3 観光圏共同事業 九州域内の 3 観光圏が連携を強化し、九州の周遊促進を図るため、連携会議を行い、情報共有を図っている。 ・【H30-R6】SNS を活用した情報発信 ソーシャルネットワークを活用し、各重点国向けに区域の観光情報及び旬の情報などの記事投稿や広告発信。 ・【R1-R6】香港･台湾プロモーション事業 訪日旅行オンラインメディア、YouTube 等を使い、当区域の観光情報を発信。 ・【H27-R6】「Undiscovered JAPAN」情報発信事業 テーマに基づく滞在プランを造成し、インバウンド観光客に日本ならではの伝統文化や暮らしを、住民との交流を通して安心して体感してもらい、リピーターにつなげる取組み。欧米豪をターゲットとし、SNS や公式 HP を活用した情報発信及び旅行会社との商談を実施。 ・【R2-R6】西九州させぼ広域都市圏連携事業 （ドライブウェブ「Drive Japan West Kyushu」） 西九州させぼ広域都市圏(12 市町)をドライブで楽しく観光していただけるよう、おすすめの観光施設、宿泊施設、ドライブコースなどをまとめたサイトを立ち上げた。日本語・英語・中国語（繁体字）に対応。 ・【R4】デスティネーションキャンペーン事業 佐賀・長崎デスティネーションキャンペーンの実施に合わせ、旬の観光素材や体験コンテンツなど、当圏域の魅力をわかりやすくまとめた動画を制作。 ・【R4-R5】佐世保「鎮守府」をフックにしたプロモーション事業 旧佐世保鎮守府凱旋記念館建設１００周年を記念した、周遊アートイベント「アソボサセボアートロード」を実施。 ・【R5】佐世保市内を 3 つのエリアに分け、それぞれのエリアを周遊する、参加体験型のコンテンツ「宝探し」を活用したイベントの開催。 ・【R6】佐世保コンテンツツーリズム推進事業 映画「きみの色」タイアップ企画として、スタンプラリーや特集記事の制作、モニターツアーの実施、ロケ地マップの制作などを行った。 ・【R6】インフルエンサー招聘事業 ハウステンボスと九十九島を中心に佐世保の観光コンテンツを題材にインフルエンサーとタイアップした情報発信を行った。

	受入環境の整備	・【H23-R6】海風の国ガイド人材育成事業 地域ガイドやガイドを目指している人材を対象とし観光客を受け入れる際のおもてなしの心の醸成、スキルアップなどを実施。 ・【R6】最適化ルート情報発信事業 観光周遊ルートやモデルコースの記事を作成し、スマートフォン向け観光サービス「STLOCAL」や公式 HP に掲載した。 ・【H26～】佐世保観光情報センターJNTO カテゴリーⅡ認定 英語で対応可能なスタッフが常駐し、佐世保市内はもとより、平戸、松浦など長崎県県北地区、小値賀、宇久など五島列島への玄関口として総合案内業務を行う。 ・【H26-R6】「海風の国」総合パンフレット制作 当圏域を 11 エリアに分け、ブランドコンセプトに基づき制作、各エリアの特色を前面に出すとともにモデルルートを設定し旅への誘いを盛り込む。また、R6 年度にはﾃﾞｼﾞﾀﾙﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ化を実施した。 ※【H28-R5】多言語パンフレット制作（英･韓･簡･繁） ・【H26-R6】「海風の国」観光圏ホームページ制作 当観光圏エリア別更新管理システム、旅行関連商品販売システム、交通機関乗換情報等機能強化充実等案内機能及び情報発信機能の強化を図った。 ・【H26-R6】小値賀エリア限定ホームページ制作 小値賀町とおぢかアイランドツーリズム協会がそれぞれ行っているホームページによる情報発信について一元化した窓口となるホームページを整備。 ・【R6】クルーズ観光促進事業 日本観光振興協会と連携して、クルーズ観光促進事業についての事業計画を策定した。 ・【H29-R4】観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」導入 世界中の旅行者に、質の高い日本の観光サービスに対する情報提供を行い、安心で快適な旅行を楽しんでいただくための仕組み。 ・【R4～】デジタルサイネージ多言語追加事業 佐世保観光情報センター入口に設置している観光案内デジタルサイネージにこれまでの日本語・英語に加え、簡体字・繁体字・韓国語を追加。 ・【R6】高付加価値化事業 観光庁の補助事業で、宿泊施設、観光関連施設等の改修、廃屋撤去等のハード面の取組に加え、キャッシュレス化や、シームレスな予約・決済が可能な地域サイトの構築等、DX 化によるソフト面の取組を支援したもの。
	観光資源の磨き上げ	観光資源の磨き上げ ・【H23-H26】着地型旅行商品「SASEBO 時旅」事業 多様化する観光ニーズへ対応するため、地域特性を活かした観光コンテンツの整備と地域イメージの確立(ブランド)を目指した。 ・【H23-H26, R3,R5】させぼバルさるく バルを佐世保流にアレンジした食べ飲み歩きイベント。

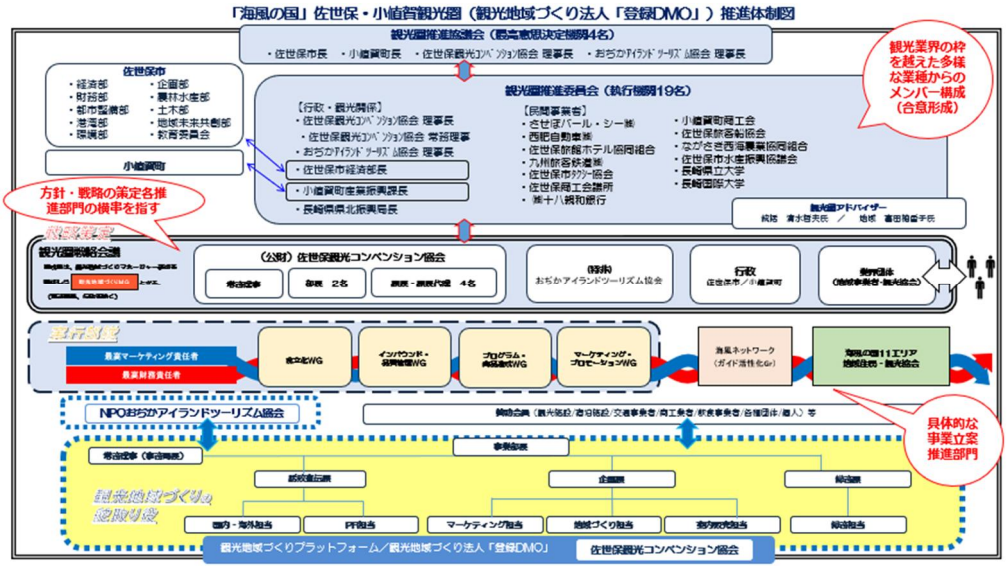
様式１

		・【H27-R3】SASEBO クルーズバス海風 地域をつなぐ二次交通手段及び本市の新たな観光素材として観光バスを整備。 ・【H27-R6】SASEBO 軍港クルーズ 軍港、造船、生活航路など、「海風の国」の顔である佐世保港をガイドの案内とともに、海上自衛隊や米海軍の施設などをめぐる滞在コンテンツを造成。 ・【R2-R6】「海風旅。Experience」造成 当日前日申し込み可能な着地型体験コンテンツを地域事業者と共同で造成。 ・【R4-R5】観光人材育成講座・体験コンテンツ造成 佐世保出身の元日本テレビプロデューサー菅賢治氏を迎え、6 名の佐世保マニアによるディープな佐世保の着地型ガイドツアーを造成。 ・【R5-R6】ガストロノミーツーリズム推進事業 「食」による観光コンテンツの強化として、生産、加工・販売、飲食店等の地域事業者が連携して、「九十九島ひらまさ」を活かしたメニュー開発、専用ウェブページや販促ツールを作成し市内外へ情報発信を行った。 ・【R6】佐世保朝市活性化事業 佐世保朝市での活性化を目的とした中長期の策定に向け、アンケート調査、朝市サミットへの参加、朝市イベントへの支援を行った。 ・【R1-R6】日本遺産特別公開ツアー事業 横須賀、呉、佐世保、舞鶴の 4 市が連携し、日本遺産「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」を観光や地域活性化に活用するため、ツアーを造成し販売している。

【定量的な評価】

R1 観光客数:5,824,354 人　対前年 96.9%
（宿泊客数：1,533,121 人 対前年 98.4%）
R2 観光客数:3,174,995 人　対前年 54.5%
（宿泊客数：868,306 人 対前年 56.6%）
R3 観光客数:3,146,152 人　対前年 99.1%
（宿泊客数：876,843 人 対前年 101.1%）
R4 観光客数：4,303,727 人　対前年 136.8%
（宿泊客数：1,262,344 人　対前年 144.0%）
R5 観光客数：4,935,725 人　対前年 114.7%
（宿泊客数：1,516,898 人　対前年 120.2%）
R6 観光客数：5,196,077 人　対前年 105.3%
（宿泊客数：1,552,017 人　対前年 102.3%）

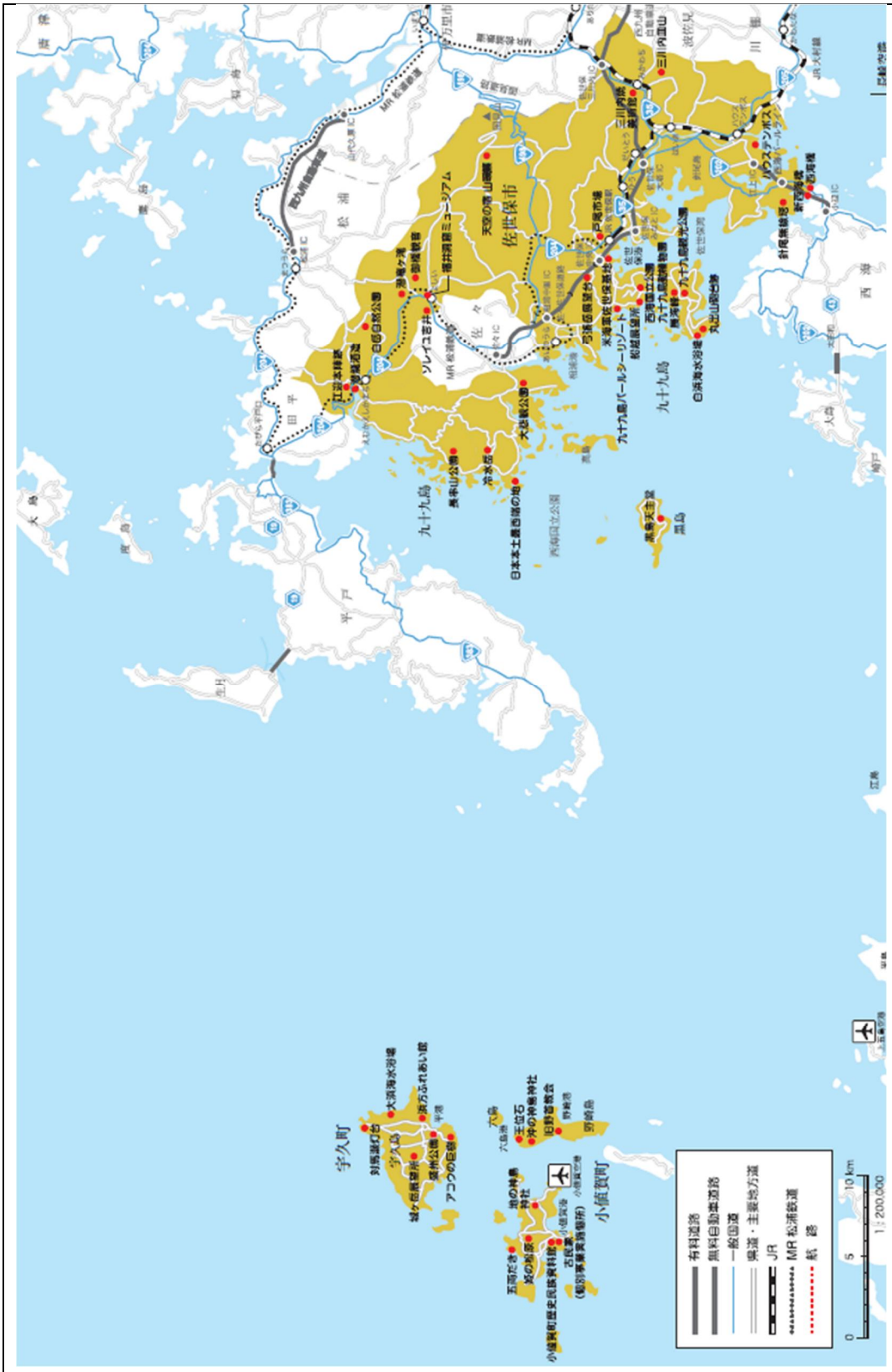
様式１

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** （公財）佐世保観光コンベンション協会を事務局に、市町、宿泊事業者、金融機関、交通事業者、商工、農林水産事業者、教育機関など多様な関係者が参画し、地域全体が密接に連携した運営を実施。 **【実施体制図】** 

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

様式１



【区域設定の考え方】

これまで佐世保市、北松浦郡小値賀町、（公財）佐世保観光コンベンション協会、NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会による「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進協議会を設置し、顧客視点に立っ

て、観光エリアマーケティングに基づく旅行商品の開発、企画販売、広報・PR、人材育成、地域住民主導による地域活性化など、連携した取組みを実施。
　この地域は、自然、歴史、文化、人の流れや物流および観光資源の面から一体性を持ち、共通のコンセプトを有することから、平成 25 年度から、一体となって「海風の国」佐世保・小値賀観光圏事業に着手した。

　ブランドコンセプト
　「海風の国」暮らしを育む海舞台　～浦々の四季で迎える西海物語～

　数万年の地殻変動によって、日本の西の端に 288㎞ にも及ぶ複雑なリアス式海岸が誕生した。その前面には 208 の島々からなる九十九島と、宇久・小値賀を有する五島列島の島々があり、暖流の黒潮から別れた対馬海流が流れている。
　複雑な海岸線と島々は、海を活動の舞台とする人々に“浦”と呼ばれる暮らしの場を与えており、特異稀な地勢が生んだ浦々には、その地ならではの特徴ある生活文化が根付いている。
　私たちは、多様な島々と浦々で構成される、この地域を“海風の国”と呼ぶ。
　人類が誕生する遥か前の大自然の営みと、海の民が初めて島や沿岸に上陸し暮らし始めた太古の物語。人、物、技、信仰など、世界と交流した歴史物語。
　国際社会を強く意識した近代から現代に至る、島国・日本が凝縮した港物語。

　ここを訪れた人々は、その一端に触れた時、その場所の、その時代を、生きた人々の夢や理想、喜びや悲しみといった奥深い物語の始まりに気付かされる。

【自然】　海の国立公園～我が国を代表する傑出した自然～
　海の国立公園「西海国立公園」に指定されている当該地域（佐世保市・小値賀町）は日本で唯一の「外洋性多島海」であり、リアス海岸の複雑な海岸線は多様な生物を育み、豊かな自然環境が残されている。特に佐世保市の九十九島（くじゅうくしま）は島の密度日本一を誇り、国立公園に指定され守られてきた自然海岸とともに美しい景観を織り成し、波穏やかな内海は養殖漁業も盛んで豊かな漁場として人々の暮らしとともにある。
　また、臼状火山の集合体である小値賀は、「海の火山博物館」「東洋のガラパゴス」と評され、随所に火山地形を残しながら、なだらかな地形を活かした農耕地を形成している。
　当該観光圏が誇る我が国を代表する唯一無二の自然「西海国立公園」を活かし、約 60㎞ に及ぶ海を隔てた当該地域ながら一つなぎの雄大な自然として魅力あふれる観光を提案する。

【歴史】　海でつながる～大陸文化と日本文化の融合・発祥・継承の地～
　当該地域の歴史は古く、旧石器時代から縄文時代の洞窟遺跡は日本一の規模を誇り、世界最古級の土器「豆粒紋土器」も出土されている。
　特に小値賀は縄文の昔から、黒潮、対馬暖流を利用した海上交通の要衝地であり、東南アジアをはじめ中国、朝鮮半島との往来・交流の跡が見られる。
　五島列島（五島藩）に位置する小値賀だが、実は平戸藩に属する。これは小値賀が唐船との活発な交易で蓄積された豊富な資金をもって平戸に進出したという平戸松浦氏の発祥の地であるためで、このため平戸藩領であった佐世保市との結びつきは古く、平戸藩の御用窯であった三川内焼（佐世保市）が小値賀町で捕鯨を行っていた小田家の所蔵品として残っており、小値賀町歴史民俗資料館において展示・解説をしている。
　これらは当該観光圏が有する独特の歴史でありながら我が国を代表する歴史であり、このつながりを一つの物語としてつむぎ、荘大で魅力的な観光を提案する。

【文化】　海が育む多様な文化～捕鯨、潜伏キリシタンと教会～
　外海離島である小値賀島（小値賀町）・宇久島（佐世保市）は西海における一大捕鯨基地として隆盛を極め、捕鯨で得られた資金をもとに様々な文化が生まれ育まれた。

特に鯨食については現在も調査捕鯨で得られた鯨肉が一般家庭で通常食として食べられるなど独特の食文化が継承されている。
また、江戸時代に敷かれた禁教令により迫害を受けたキリシタンが逃れてきた地であり、キリシタン文化や信仰と祈りを今に伝える黒島天主堂（佐世保市）がある黒島の集落、旧野首教会（小値賀町）がある野崎島の集落跡が共に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に位置づけられており、世界遺産として平成 30 年 7 月に登録された。
当該観光圏が有する我が国を代表する食文化と世界に誇る歴史遺産について地域の特性とスケール感を活かし命の尊さと合わせ荘厳な物語として新たな観光を提案する。

【生活圏】　海とともに生きる～漁業・農業・生活の地～
小値賀島は佐世保市街地から 60ｋｍ以上離れた外海離島だが、佐世保市である宇久島と隣接し、非常に密接な関係にある。
漁業は宇久小値賀漁業協同組合として、農業はながさき西海農業協同組合として連携し佐世保港に水揚げ、集荷している。
また、小値賀島と宇久島、佐世保港を結ぶ定期航路（高速船：3 便／日、フェリー：2 便／日）が、手術や出産など高度医療が必要な場合や生活必需品の輸送、商業交流など島の人々の暮らしを支えている。

【連携活動実績】
① ながさき県北観光協議会：長崎県県北地域の自治体等（4 市、5 町、3 団体）で連携してチラシ類の制作やフェイスブックの制作等連携 PR を実施。年に 2～3 回程度、旅行会社を訪問し合同セールスを行っている。
② 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産：長崎県を中心として遺産を構成する市町で連携して観光 PR を実施。（ポスター、チラシ、パンフレット制作、ホームページ制作等）
③ 小値賀町と佐世保市宇久島集落が連携し、特産魚の“イッサキ”のブランド『値賀咲』を商標登録し共同販売事業を実施している。
④ 佐世保市広域消防業務：昭和 47 年から小値賀町の常備消防業務は佐世保市消防局に委託しており、佐世保市消防局の消防職員が小値賀町に赴任し救急及び消防業務にあたると共に、小値賀町消防団員の技術指導も行っている。
⑤ 介護認定審査会：介護を必要とする状況になった場合には要介護度認定に関する審査を必要とするが、小値賀町の住民にかかる審査を佐世保市が設置する審査会で認定作業を行っている。
⑥ 西九州させぼ広域都市圏連携事業：地域経済の活性化や魅力の向上、行政サービスにかかる費用を節減するなど、規模の優位性を生かした取り組み（観光、産業のほか、医療、福祉、教育・文化、災害対策、環境分野などで連携）を行っている。

【2 泊 3 日以上の滞在への対応】
主たる滞在促進地区から交流地区までの距離は 5～20km（宇久島、小値賀島は約 60km）内であり、各地区に 90 分程度の短時間のコンテンツから半日、一日を要する長時間のコンテンツまで様々な滞在コンテンツが合計 60 以上点在しており、2 泊 3 日の滞在に対応している。
特に主たる滞在促進地区に隣接する「九十九島交流地区」は海の国立公園『西海国立公園』九十九島の観光拠点で、佐世保市の中心市街地から約５kmに位置しており、アクセスが良好であるとともに、
①展望台から楽しむ景観観光
②遊覧船による遊覧観光
③水族館・動物園など教育・レジャー観光（博物館相当施設・レジャー施設）
④シーカヤック、スキューバダイビングなどの体験観光
⑤海の幸を楽しむ食の観光
など多種多様な魅力的な観光素材がそろっており、西海国立公園九十九島を本格的に楽しむためには最低でも 1 日を要する。
さらに中心市街地における港まち佐世保市ならではの観光メニュー（海軍の歴史、自衛隊艦船見学、米海軍艦艇見学、グルメ観光等）を合わせると 1 日半以上が必要となる。

また、交流地区の一つである「針尾島交流地区」（直線距離約 10㎞）には本格的リゾート施設ハウステンボスに加え、太平洋戦争開戦の暗号電文「ニイタカヤマノボレ」を発信した施設と言われる「針尾送信所（国重要文化財・日本遺産認定）」が存在し、これらをゆっくりと楽しむためには 1 日以上の滞在が必要となる。

さらに外海離島である宇久島・小値賀島までは、佐世保港から高速船で 1 時間半～2 時間、フェリーで 2 時間半～3 時間を要する。宇久・小値賀観光では本物の島の暮らしをゆっくり楽しむ民泊や古民家ステイが体験でき 1 泊 2 日以上を要する。

海でつながる佐世保・小値賀観光圏では、多種多様で魅力的な 2 泊 3 日以上の滞在型観光が提案できる。

【観光客の実態等】

① 観光客数の推移

	令和 6 年 （前年比）	令和 5 年 （前年比）	令和 4 年 （前年比）	令和 3 年 （前年比）	令和 2 年 （前年比）
佐世保市	5,196,077 人 （105.3%）	4,935,725 人 （114.7%）	4,303,727 人 （136.8%）	3,146,152 人 （99.1%）	3,174,995 人 （54.5%）
北松浦郡 小値賀町	34,863 人 （95.6%）	36,472 人 （98.0%）	37,219 人 （130.9%）	28,428 人 （114.4%）	24,848 人 （54.7%）
計	5,230,940 人 （105.2%）	4,972,197 人 （114.5%）	4,340,946 人 （136.7%）	3,174,580 人 （99.2%）	3,199,843 人 （54.5%）

② 宿泊客数の推移

	令和 6 年 （前年比）	令和 5 年 （前年比）	令和 4 年 （前年比）	令和 3 年 （前年比）	令和 2 年 （前年比）
佐世保市	1,552,078 人 （102.3%）	1,516,898 人 （120.2%）	1,262,344 人 （144.0%）	876,843 人 （101.0%）	868,306 人 （56.6%）
北松浦郡 小値賀町	13,059 人 （88.9%）	14,685 人 （104.4%）	14,067 人 （116.7%）	12,053 人 （124.7%）	9,662 人 （62.9%）
計	1,565,137 人 （102.2%）	1,531,583 人 （120.0%）	1,276,384 人 （143.6%）	888,896 人 （101.2%）	877,968 人 （56.6%）

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

（観光･文化施設・商業施設）
- ハウステンボス
- 九十九島パールシーリゾート
  海きらら（水族館）、遊覧船（大型船 2 隻等）、森きらら（動植物園）
- 西海橋
- えきマチ 1 丁目佐世保（佐世保駅前商業施設）
- させぼ五番街（佐世保港を臨む大型商業施設）
- さるくシティ 4〇3（四ヶ町、三ヶ町商店街）
- 万津 6 区（佐世保港近く商店街）
- 佐世保市博物館島瀬美術センター（佐世保市街地の中心にある美術センター）
- 旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館（市民文化ホール）
- 福井洞窟ミュージアム（遺跡博物館）
- 旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設

（自然）
- 西海国立公園（九十九島、弓張岳、烏帽子岳、宇久島、小値賀島等）

（文化）
- 世界文化遺産登録（長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産）

黒島の集落（佐世保市）
野崎島の集落跡（小値賀町　野崎島）
・日本遺産　鎮守府　佐世保－日本近代化の躍動を体感できるまち－（横須賀等４旧軍港）
・日本遺産　日本磁器のふるさと　肥前～百花繚乱のやきもの散歩～（佐世保市三川内ほか）
（イベント等）
・させぼシーサイドフェスティバル
・早岐茶市
・アメリカンフェスティバル inSASEBO
・江迎千燈籠まつり
・YOSAKOI させぼ祭り
・佐世保 JAZZ
・SASEBO JAM FESTIVAL
・佐世保きらきらフェスティバル
・九十九島かき食うカキ祭り
・ハウステンボス　花の王国
・ハウステンボス　光の王国
・おぢか国際音楽祭（小値賀町）

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】
・佐世保市、北松浦郡小値賀町全域
・施設数：123 件
・収容力：10,660 人

令和 7 年 4 月現在

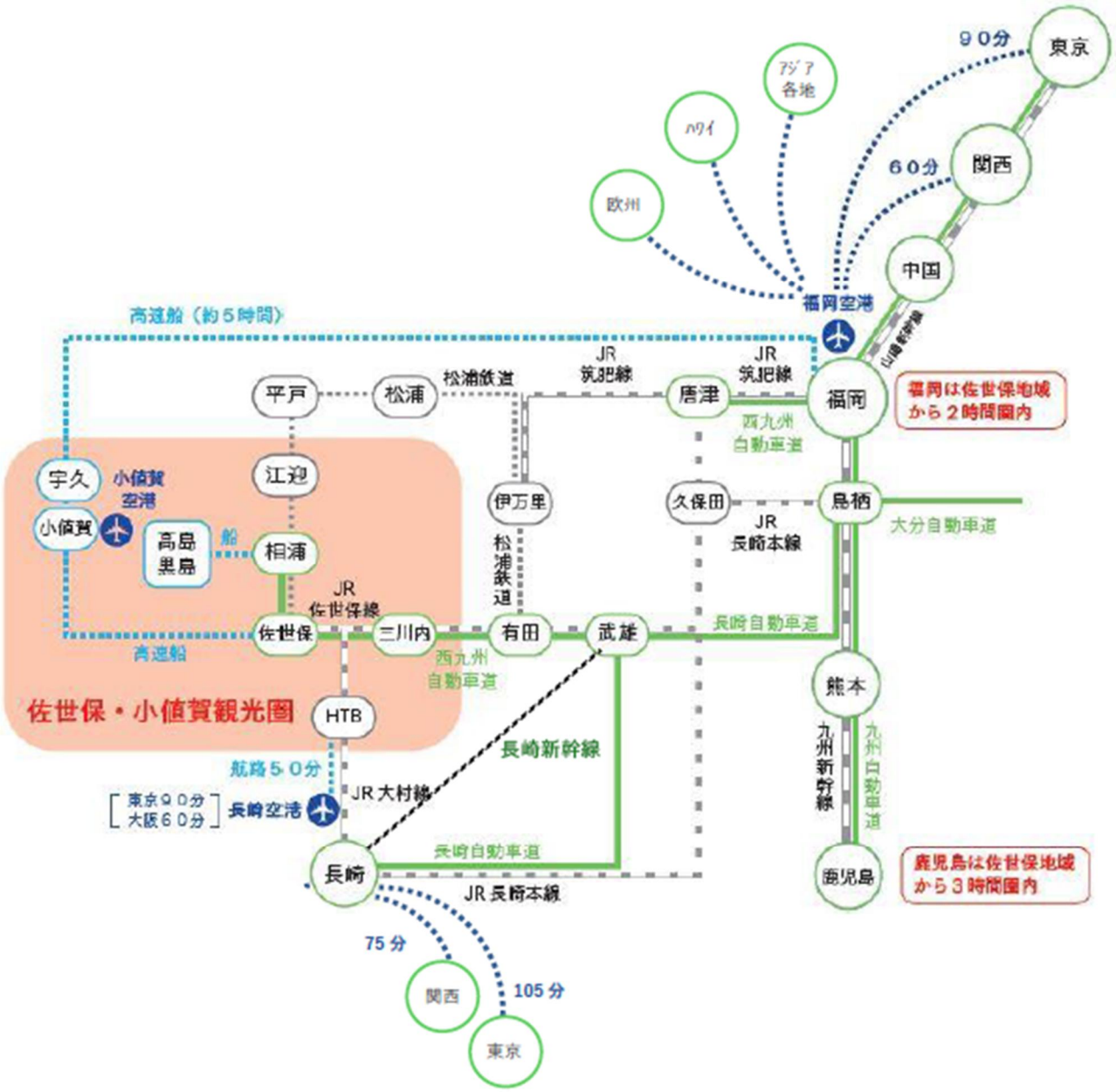
収容規模（件）	旅館	ホテル	民宿 ペンション	青年の家 少年自然の家	体験民宿	民泊 ※1	その他 ※2
佐世保市	16	40	7	2	3	1	23
小値賀町	3	0	5	0	16	2	5
合計	19	40	12	2	19	3	28

※1「民泊」は長崎県が「住宅宿泊事業法」に届出のある運営者を取りまとめている。
※2「その他」は一棟貸施設、グランピング施設、ヴィラ等、上記分類以外の宿泊施設。

様式１

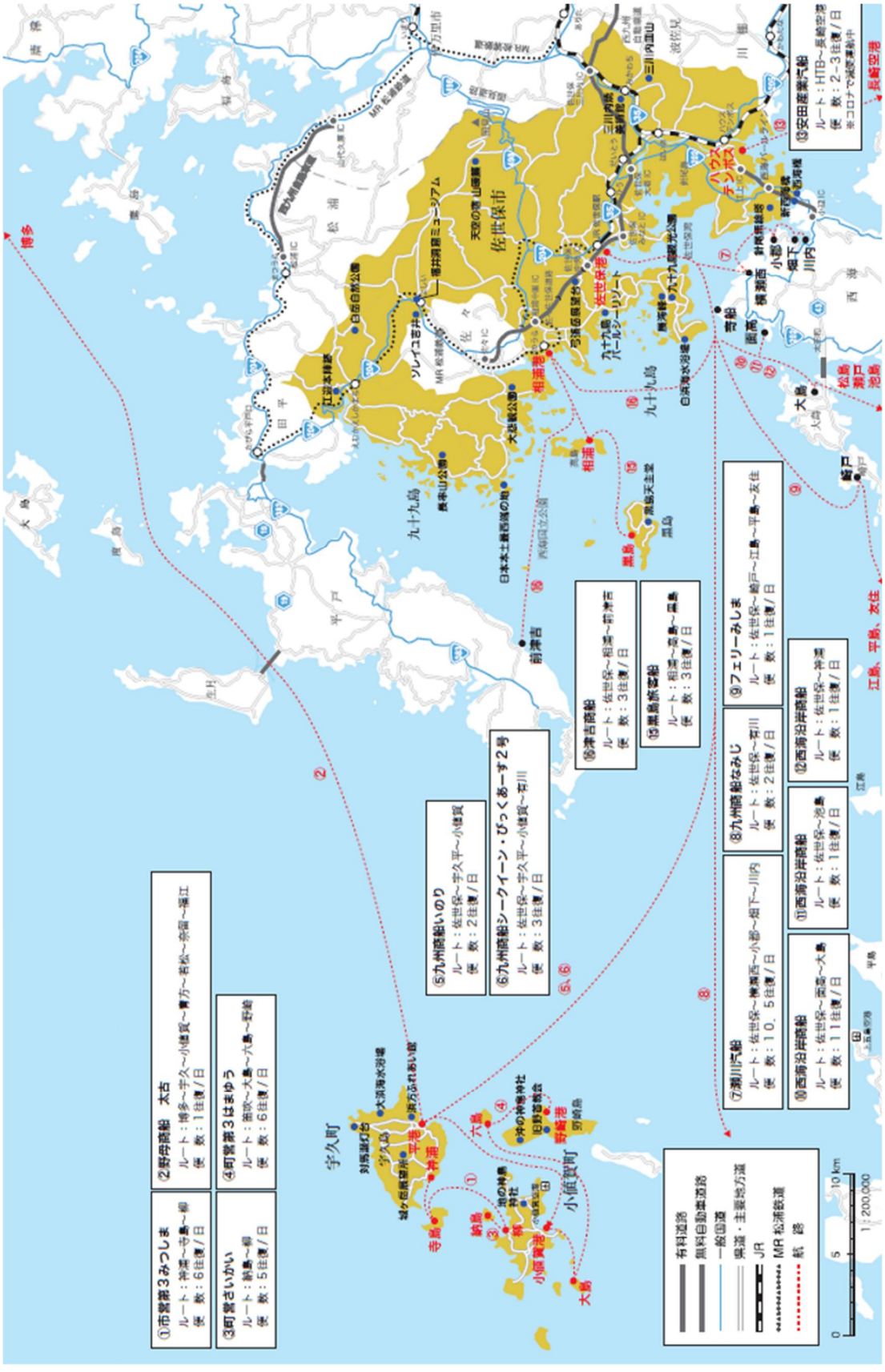
【利便性：区域までの交通、域内交通】

区域までの交通アクセス



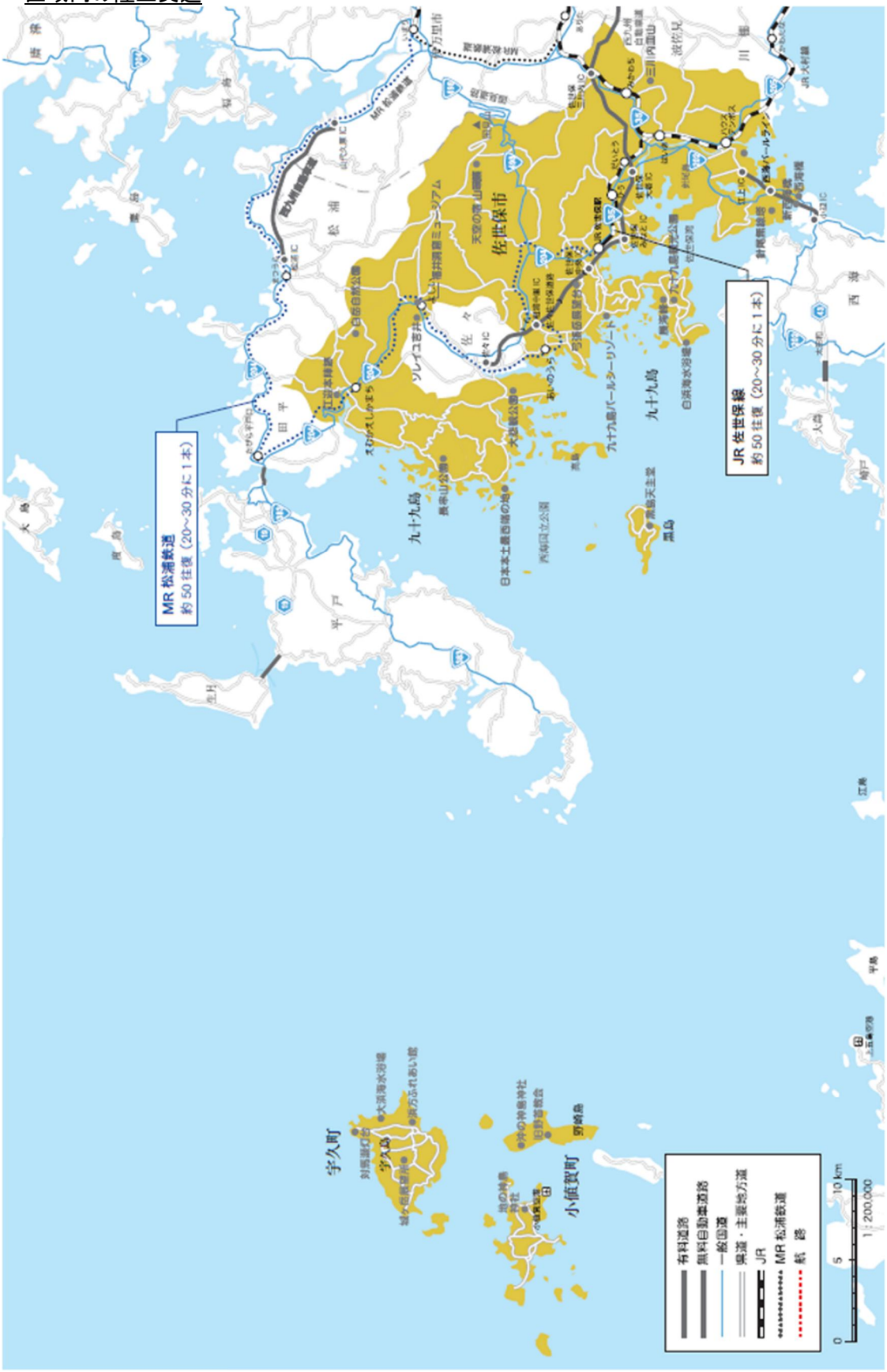
様式１

区域内の海上アクセス



様式１

区域内の陸上交通



【外国人観光客への対応】

① 外国人観光案内所
・佐世保観光情報センター（JNTO 認定、カテゴリー2）
・JR 佐世保駅構内無料公衆無線 LAN 環境整備
② 観光情報
・ホームページ（英語、韓国語、繁体字、簡体字）
・観光パンフレット 5 か国語（英語、韓国語、繁体字、簡体字、タイ語）
・英語･繁体字対応二次交通紹介映像
・佐世保駅構内デジタルサイネージ（英語、日本語、繁体字、簡体字、韓国語）
③ 観光施設
・九十九島水族館　多言語ガイダンス
・九十九島遊覧船　多言語ガイダンス
・主要観光地観光看板　ユニボイスコード設置（英語、韓国語、繁体字、簡体字）
④ 宿泊施設
・4 か国語（英語、韓国語、中国（繁体・簡体））表示（一部）
・インターネット環境整備　有線、WI-FI（圏域内ほとんどの地域で対応可）
・衛星放送テレビ（一部）
⑤ 国際旅客船ターミナル（三浦港、浦頭港）
⑥ 交通機関
・SASEBO 軍港クルーズ　多言語化システムの導入（英語、中国（繁体・簡体））
・西肥バス　高速バスでの多言語アナウンス
　長崎線・長崎空港線（英語）
　福岡線（英語、中国（繁体・簡体））
⑦ 滞在コンテンツ
・まち歩きマップ（英語）
・英語、広東語を話せるガイドが案内するまち歩き
・海風旅。Experience（英語）
⑧ マーケティング
・訪日外国人対象顧客満足度調査（英語、韓国語、繁体字、簡体字）
・モバイル空間統計周遊分析
・SNS（Instagram、twitter、Facebook、ウェイボー）
・Social Insight
・おでかけウォッチャー

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額 延べ宿泊者数 来訪者満足度 リピーター率	経済波及効果の測定および観光地域づくりの戦略策定に活用する。 ・顧客満足度の向上 ・観光客誘致 ・リピーター創造 ・旅行消費額の向上	来訪者へのアンケート調査 ・観光地における調査員対面式聞取り調査 ・宿泊施設、観光施設における留置調査
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	海風の国 観光圏 させぼ･おぢかの観光情報サイト https://www.sasebo99.com/

		Google アナリティクスを活用して実施。
≪佐世保市ＧＡＰ調査≫ ＜調査項目＞ ・観光素材認知度	経済波及効果の測定および観光地域づくりの戦略策定に活用する。 ・顧客満足度の向上 ・観光客誘致 ・リピーター創造 ・旅行消費額の向上	インターネットによるアンケート調査 対象「マクロミル」モニター会員
住民満足度	この地域の観光や今の観光事業に対する住民の意識を調査する。 （地域ブランドの構築に欠かせない地域住民と経営側の共感づくりのため）	佐世保・小値賀地区にお住まいの方へのアンケート
動向調査およびＳＮＳ分析調査	観光客の周遊動向等の科学的な分析を行い、圏域の自治体で情報の共有化を図ることにより、圏域内の観光資源を有機的に結び付け、地域交流人口の拡大及び経済活動の活性化を検討のための基礎資料とする。	おでかけウォッチャーおよびSNS・WEBデータ等ビッグデータを活用
旅行商品・プログラムの調査	旅行商品、コンテンツの磨き上げにより、顧客満足度向上を図る。	旅行商品・プログラム参加者へのアンケート
≪長崎県観光統計≫ （佐世保市経由） ＜調査項目＞ ・延べ宿泊者数 ・宿泊施設の稼働率	・観光入込客数の把握 ・経済波及効果の算定	各市町および宿泊施設からの報告
≪佐世保市観光統計≫ （佐世保市共同実施） ①観光施設入込客数 ②イベント来場者数 ③宿泊者数（実数、延数） ④外国人観光客数（宿泊者数） ⑤観光概況・動向（単年度） ⑥観光客推移（複数年度）	観光入込客数の把握 ・経済波及効果の算定	①各観光施設からの報告 ②イベント等主催者発表 ③④宿泊施設からの報告
≪その他≫ ・ユニバーサルツーリズムに関する調査	旅行商品、コンテンツの磨き上げにより、有効なアプローチ方法など、戦略を策定する上での基礎資料とする。	インターネットによるアンケート調査

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

近年、人口減少・少子高齢化に直面する最重要課題である「地方創生」において、観光振興は交流人口を拡大させ、経済効果をもたらし、地域を活性化する原動力として期待されている。こうした取り組みを進めるためには、観光地経営を担うための機能と高い専門性を有した観光地域づくり法人（地域連携DMO）を核として、多様な関係者と合意形成を図りつつ、明確なコンセプトに基づいた戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施しながら観光地域づくりを進めていくことが必要である。

当DMOは、観光庁の基本理念である「住んでよし、訪れてよし」の観光地域を目指して、数ある地域づくりの手段の中から、観光を手段として、「誇りがもてる」「暮らしやすい」豊かな地域づくりを

推進する。また、交流人口の増加は、もたらされる経済波及効果での定住人口の減少を経済的に補完しつつ、裾野が広い観光関連分野の「産業化」を促進させ新たな仕事を生み出し、将来的には人口の増加にも寄与することが期待される。

令和 3～ 5 年度の「佐世保市観光アクションプラン」に続き、令和 6～9 年度の「佐世保観光振興羅針盤」を策定した。持続的な観光需要の拡大に繋げるためには、本市の持つ特徴や強みを生かした観光コンテンツの磨き上げ・開発並びに効果的なプロモーションによるオンリーワン観光の振興をはじめ、観光サービスの品質向上や高付加価値化への取組みと共に、事業者、旅行者、地域住民が、地域コミュニティの活性化に貢献できる仕組みづくりが必要となっている。更に、観光 DX を推進するにあたり、デジタルマーケティング等の取組みを積極的に実施することにより、各種データを継続的に収集・分析をすすめ、求めているターゲット（エリア、年齢層、性別、属性、インバウンド等）層への効果的な情報発信や誘致促進策を戦略的に実施し、今後、観光客から選ばれる観光地として国内外からの誘客を図ることを目的に、実効性のある観光振興羅針盤を策定した。

KPI として「観光消費額」、「観光消費単価」、「訪日外国人宿泊客数」、「クルーズ客船による乗降人員数」「来訪者満足度」、「西海国立公園九十九島の認知度」、「地域住民の満足度」を設定し、国内外の多くの観光客が佐世保市の魅力を体感し、観光消費により地域経済が活性化することを目的として事業を展開している。

R6 年度の来訪者満足度調査によると、本地域での平均消費金額は 39,624 円（前年 28,044 円）、前年比 141.3%と大きく増加したものの、全国の 13 の観光圏の平均金額は 46,003 円（前年比 117.9%）と、他地域に比べるとまだ低い。これは、本地域の日帰り率（本地域 33.7%、全観光圏平均 23.5%）が高く、宿泊率（本地域 59.9%、全観光圏平均 71.8%）が低いことに起因する。日帰り観光としては十分に楽しめるものの、それが宿泊観光に結び付いていない現状がある。宿泊につながる観光コンテンツの磨き上げ、広域連携を活用した観光客の誘客促進、ナイトタイムエコノミーの推進を強化していく必要がある。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・自地域で積極的に活用できる強みは何か？** ・日本本土最西端に位置し、大陸に最も近い玄関口であること ・西海国立公園九十九島を有していること ・大型テーマパークのハウステンボスを有していること、またハウステンボスは広域でエリアとしての滞在型テーマパークを推進されていること ・米軍基地を有することで、アメリカ人が日常行き交うとともに佐世保バーガーや外国人バーなどアメリカ文化を直接体験できること ・JR 佐世保駅、佐世保港ターミナル、高速道路インターチェンジといった交通の要衝と中心市街地（街なか）との距離が近いこと ・日本遺産「鎮守府」「三川内焼」、世界 文化 遺産”黒島の集落”を有していること	**弱み（Weaknesses）** **・自地域で改善を必要とする弱みは何か？** ・観光施設の老朽化により魅力が減少していること ・日帰り観光客が多く、宿泊観光客の取込みが不十分であること ・ナイトタイムの仕掛け作りが不足していること ・ハウステンボスと佐世保バーガー以外の認知度が低いこと ・冬季の観光客数が少なく、通年型観光になっていないこと ・クルーズ観光客の消費効果が流失していること ・二次交通の利便性が悪いこと

	・小値賀町古民家ステイ　6 軒	・多言語可能なガイドが不足していること
外部環境	**機会（Opportunity）** **・自地域にとって追い風となる要素は何か？** ・ハウステンボスが、周辺地域との連携強化に力をいれていること ・クルーズ船の受入港（国際ターミナル）が 2 拠点あること ・クルーズ船の入港が増加していること ・西九州させぼ広域都市圏等の広域連携の活動が進んでいること ・西九州道の４車線化工事が進められていること ・西九州新幹線の開通、ながさきスタジアムシティの開業など	**脅威（Threat）** **・自地域にとって逆風となる要素は何か？** ・国際クルーズ客船の誘致競争が激化していること ・国内人口減少に伴う国内旅行市場が縮小していること（少子化によるファミリー旅行者層の減少） ・若年層の市外流出が進んでいること ・ＩＲの認定が見送られたこと ・人手不足が深刻化していること ・二次交通の更なる脆弱化が見込まれて いること

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層 福岡を中心とした北部九州（福岡･佐賀･長崎･熊本･大分）　20～50 代女性（F1～F3 層）
○選定の理由 20 代から 50 代の女性年齢層には、子どものいる世帯や夫婦世帯が含まれており、現状でも本市への来訪が最も多い層であることから、この層をメインターゲットとすることが最も効果的と思われる。来訪者満足度調査では、本市来訪者の約 7 割が九州 7 県からであるため、マイクロツーリズムの観点からも近隣からのリピーター獲得を目指す。 ○取組方針 ①満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。 ②地域における観光客受入体制の整備と滞在交流プログラムの企画造成により、滞在時間の延長による宿泊率向上を図るとともに地域消費額の増額等による地域振興及び地域経済効果の向上を図る。
○ターゲット層 訪日外国人（重点地域：東アジア（香港・台湾・中国(上海)・韓国・タイ）
○選定の理由 ゴールデンルート等の主要観光地については、コロナ前を上回る状況まで拡大しつつあるなか、当圏域においては、長崎空港の国際線就航が未だ再開されていないなどの要因から、以前の水準まで回復していない状況となっている。 こうした状況において、広域での連携が重要な訪日外国人観光客を佐世

保へ誘致するためには、まずは、アジアの主要都市とのアクセスが良い福岡空港をゲートウェイとし、東アジア（ 中国・ 台湾・香港・韓国）やタイの訪日外国人観光客をメイ ンターゲットと捉え、周辺自治体や市内事業者等と連携し、市場に応じた効果的なプロモーションを行うと共に、受入環境の整備を行いながら、誘客促進の取組みを進めていく。

〇取組方針
①インバウンド向けコンテンツ開発とプロモーション展開の推進
②訪日外国人観光客の受入れ環境の整備
③広域連携によるインバウンド向けプロモーションの強化
④長崎県、周辺自治体や市内事業者と連携した海外向け情報発信

〇ターゲット層
国内（主に首都圏）30～50 代女性

〇選定の理由
ニーズ GAP 調査により、本ターゲット層は「認知度が低い」ものの、「関心度の高さ」が確認されており、首都圏が持つ、人口規模、経済性等から大きな効果を狙う。

〇取組方針
①顧客満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。
②ニーズ GAP 調査に基づき、スター候補となる観光素材を抽出し、コンテンツの創造とストーリーを付加した商品開発を行い、Web、SNS を活用し発信を行う。

〇ターゲット層
欧米豪在住の日本文化に興味がある富裕層

〇選定の理由
①日本の歴史・伝統・文化に関心の高い欧米豪が、地域文化に根ざした滞在交流型観光に興味を示すことが期待できるため。
②当圏域の中心都市である佐世保市は、戦後一貫して米国との深い交流の歴史を有する。
③小値賀町は、欧米豪をターゲットとした事業を推進している。

〇取組方針
①満足度調査により再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求できるよう、受入体制や滞在コンテンツなどの磨き上げを行う。
②「Undiscovered Japan」の活動により、販路拡大を行う。
③小値賀町と連携した高付加価値な「一丁目一番地のモデルコース造成」を検討する。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	「海風の国」暮らしを育む海舞台　～浦々の四季で迎える西海物語～
②コンセプトの考え方	・「海風の国」 海に生きてきた人々の暮らすところ。 「風」・・・出会い、交流し、共生する人々の躍動感。 西の海から、日本の文化に新しい風を送り込んできた本圏域の歴史的存在価値を表現。 ・「暮らしを育む海舞台」 「海」を舞台とした人々の交流、営みを表現。

	無数にある島、半島、崎、入り江や浦と一体化した「海」が人々の営みの場であることを、本圏域の特性、独自の価値とする。 ・「浦々の四季で迎える西海物語」 「島々」「複雑な海岸線」「全長 288Km に及ぶ自然海岸」といった、他にない地勢からくる歴史背景と、その延長にある無数の浦々の暮らしの場を旅のステージとする。 「海風の国」は九州西北部、日本列島の最西端に位置する。大陸に最も近く、温暖でおだやかな気候と、複雑なリアス海岸と無数にある島や半島は、暮らしの場となる穏やかな浦々を形成し、目の前に広がる海は豊かな恵みをもたらした。 また、海は異文化との交流の舞台ともなり、「海風の国」の人々は、異文化を驚きと喜びをもって取り入れてきた。この「海」を旅のステージとして、島国日本に住む私たち日本人の心の源流を体感する旅を提供していくことで、本圏域の観光地域ブランドを確立していく。 それは暖かいこの地域の海がもたらす豊かさであり、旅人を気持ちよく受入れる人々の気持ちであり、異なるものと出会う発見の喜びである。 「海風の国」観光圏では、海を旅し、浦々での海の暮らしに出会う旅を提供する。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	①最高意思決定機関として、佐世保市長・小値賀町長・おぢかアイランドツーリズム協会理事長・佐世保観光コンベンション協会理事長からなる、「海風の国」観光圏推進協議会での共有。（年１回） ②同協議会の決定を推進するため、官民の多様な関係者が参加する「海風の国」推進委員会での共有。（年２回程度開催） ③地域の課題解決を目的に、DMO が事務局となり、案件ごとに市町、宿泊事業者、観光事業者、交通事業者（鉄道、バス、タクシー、船舶）、商工、農林水産事業者、金融、教育機関など多様な関係者が参画するワーキンググループや協議会を設置し事業を実施。 ④佐世保市、小値賀町、佐世保観光コンベンション協会、おぢかアイランドツーリズム協会の 4 者で月に 1 回、リアル又はオンラインで定例進捗会議を開催。 ⑤佐世保･小値賀観光圏観光地域づくりマネージャーの定例会議を年４回程度開催。事業の戦略等に活かす。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	①「海風の国観光マイスター」の認定制度により、本区域についての様々な情報と豊かな知識（地理・歴史・文化・食等）とおもてなしの心をもって来訪者を案内できる人材を育成し、迎え入れ体制の拡充を図る。 ②海風の国観光マイスター取得者やボランティアガイド団体で構成される、区域の来訪者受入れに携わる人材によるネットワーク「海風ネットワーク」へ、区域の歴史や自然を学ぶ機会や活動の機会、観光地域づくりの取り組みへの参加機会の情報提供・共有により、サービスの向上、迎え入れ体制の拡充を図る。

	③国土交通大臣より全国 13 の地域が認定された観光圏がアライアンスを組み宿泊施設など地域が提供する観光サービスに係る品質認証制度（サクラクオリティ）の導入。現在、長崎県が主管し、県下全域に拡大。 ④周遊滞在型観光の受入体制強化の為の地域における人材育成を、５つの重点エリアを中心に定期的に実施することで、サービスの向上、迎え入れ体制の拡充を図る。 ⑤顧客満足度調査やニーズ GAP 調査を実施し、観光・宿泊施設、飲食店をはじめとする地域の関係者に分析結果の報告会を行い、サービスの向上と迎え入れ体制を強化する。 ⑥観光客の周遊・滞在の促進と観光消費の拡大を目指し、令和 3 年に策定した「佐世保市観光アクションプラン」に基づき、マーケティング調査・分析をしながら、本市固有の観光資源を活用した企画・宣伝・誘致と受入態勢を行ってきた。また令和 6 年度からは、新たに策定した「佐世保市観光振興羅針盤」に基づき、事業を実施する。 ⑦長崎県内のシンクタンク「公益財団法人ながさき地域政策研究所（シンクながさき)」へ伴走支援を依頼し、マーケティングに関する定期的なワーキング、戦略会議を開催。R5 年 12 月から毎月、定期的に分析したデータを基に、観光動向など関係事業者に有益な情報をまとめたマーケティングレポートを作成し、発信を行っている。また、マーケティングレポートをわかりやすく解説した動画を Youtube に公開している。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	①「海風の国」佐世保･小値賀公式 HP 及び SNS ②マーケティング調査に基づき、ターゲット、広告媒体の選定等を行い、DMO で情報発信の一元管理。 ③WEB マーケティングのリテラシーを向上させ、運用改善の PDCA サイクルを的確に回せることを目的として、WEB マーケティング会社からターゲット選定や広告手法の選択など、WEB 広告のマーケティングについて研修を受け、事業で活用している。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	131,200	80,000	96,000	100,000	120,000	140,000
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	61,558	80,944	100,230			
		(－)	(－)	(－)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	1,385	1,622	1,900	1,957	2,015	2,076
		(73)	(96)	(127)	(168)	(176)	(185)
		1,547	1,829	1,847			

	実績	(63)	(138)	(180)			
●来訪者満足度（%）	目標	92.0	93.0	94.0	95.0	95.5	96.0
		(53.9)	(54.5)	(55.1)	(55.7)	(56.2)	(56.7)
	実績	92.2	94.7	91.1			
		(－)	(－)	(90.9)			
●リピーター率（%）	目標	73.0	73.5	74.0	74.5	75.0	75.0
		(-)	(21.5)	(22.0)	(22.5)	(23.0)	(23.5)
	実績	60.1	59.7	58.8			
		(－)	(－)	(20.5)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

平成 25 年度から観光地域ブランド確立支援事業を実施するにあたり 5 ヵ年の数値目標を佐世保市と小値賀町にて設定。観光旅客の動向、ニーズ等の情報収集とともに、内的及び外的環境の影響等の分析を行う。毎年度、目標数値及び事業の進捗の評価を行い、改善のための見直しを実施し、必要な計画の変更を行う。新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 29 年度に目標数値を一度設定したが、令和 4 年度にコロナ禍を経て、目標数値を見直した。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額
・実績（R4-R6）＝佐世保市＝市観光統計、小値賀町＝県観光統計 を使用。
・KPI（R7-R9）＝コロナ禍を経て、R4 実績から R5 年度以降の KPI を見直した。R6 年度にコロナ前（H30）の水準にまで回復することを想定して設定。
・外国人については、算出根拠となるデータが不足しているため、測定不可。
●延べ宿泊者数
・実績（R4-R6）＝長崎県観光統計の佐世保と小値賀の実績合計。
・KPI（R7-R9）＝R5 年度に認定された第 3 期「海風の国」佐世保・小値賀観光圏整備計画に順ずる。
●延べ宿泊者数（外国人）
・実績（R4-R6）＝長崎県観光統計の佐世保と小値賀の実績合計
・KPI（R7-R9）＝R5 年度に認定された第 3 期「海風の国」佐世保・小値賀観光圏整備計画に順ずる。
●来訪者満足度
・実績（R4-R6）＝全国観光圏でのデータ（事業者＝㈱ディ・プラス）
・KPI（R7-R9）＝R5 年度に認定された第 3 期「海風の国」佐世保・小値賀観光圏整備計画に順ずる。
●リピーター率
・実績（R4-R6）＝全国観光圏でのデータ（事業者＝㈱ディ・プラス）
・KPI（R7-R9）＝R5 年度に認定された第 3 期「海風の国」佐世保・小値賀観光圏整備計画に順ずる。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●一人当たり旅行消費額	目標	24,000	26,000	28,000	30,000	32,000	34,000
		(46,000)	(47,000)	(48,000)	(49,000)	(50,000)	(51,000)

様式１

	実績	24,036 (39,200)	28,044 (77,992)	39,624 (50,806)			
●ワンストップ窓口での旅行商品参加者数	目標	10,600 (－)	12,720 (－)	15,260 (－)	16,020 (－)	16,820 (－)	17,660 (－)
	実績	10,636 (－)	11,036 (－)	10,143 (－)			
●観光素材認知度（九十九島）	目標	64.0 (－)	65.0 (－)	66.0 (－)	67.0 (－)	67.5 (－)	67.7 (－)
	実績	61.1 (－)	57.5 (－)	59.7 (－)			
●公式ＨＰユーザー数	目標	1,028,200 (－)	1,060,000 (－)	1,091,800 (－)	1,124,500 (－)	1,158,200 (－)	1,216,100 (－)
	実績	1,028,628 (－)	1,117,810 (－)	1,170,521 (－)			
●公式ＨＰエンゲージメント数	目標	892,400 (－)	920,000 (－)	947,600 (－)	976,028 (－)	1,005,300 (－)	1,035,400 (－)
	実績	894,034	936,002 (－)	947,704 (－)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

平成 25 年度より観光地域ブランド確立支援事業を実施するにあたり 5 ヵ年の数値目標を佐世保市と小値賀町にて設定。観光旅客の動向、ニーズ等の情報収集とともに、内的及び外的環境の影響等の分析を行う。毎年度、目標数値及び事業の進捗の評価を行い、改善のための見直しを実施し、必要な計画の変更を行う。令和 5 年度に、コロナ禍を経て、目標となる指標および目標数値を改めて設定した。

【設定にあたっての考え方】

●一人当たり旅行消費額
・実績（R4-R6）＝全国観光圏でのデータ（事業者＝㈱ディ・プラス）
・KPI（R7-R9）＝R5 年度に認定された第 3 期「海風の国」佐世保・小値賀観光圏整備計画に順ずる。
●ワンストップ窓口での旅行商品参加者数（募集型企画旅行、佐世保軍港クルーズ参加者の合計）
・コロナ禍を経て R4 年度に目標数値を設定した。
・R4―R6 前年比 20%増、R7-R9 前年比 5%増
●観光素材認知度（九十九島）
・海風の国の圏域を代表し「九十九島（くじゅうくしま）」の認知度を平成 30 年度に 70%に設定したが、コロナ禍を経て R4 に目標を見直し。以降、微増（1～2%増）
●公式 HP については、Google が提供するウェブ分析サービスが R5.7 月より GA4 として導入されたことにより、これまで指標としていたアクセス数やページビュー数ではなく、より個々のユーザーの行動とエンゲージメントに焦点を当てたものに変更となったことから、R4 年度から指標をユーザー数と、エンゲージメント数に変更した。
・ユーザー数　前年比 3%増
・エンゲージメント数　前年比 3%増

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	620,154,937（円）	1.会費収入	3,710,000 円
		2.収益	124,288,715 円
		3.市町村からの補助金等	471,049,930 円
		4.都道府県からの補助金	3,552,000 円
		5.国からの補助金	9,780,575 円
		6.その他	7,773,717 円
2023（Ｒ５）年度	319,441,612（円）	1.会費収入	4,020,833 円
		2.収益	75,177,478 円
		3.市町村からの補助金等	228,773,575 円
		4.都道府県からの補助金	850,000 円
		5.国からの補助金	6,674,620 円
		6.その他	3,945,106 円
2024（Ｒ６）年度	233,006,918（円）	1.会費収入	4,166,666 円
		2.収益	53,204,472 円
		3.市町村からの補助金等	152,036,964 円
		4.都道府県からの補助金	0 円
		5.国からの補助金	21,633,984 円
		6.その他	1,964,832 円
2025（Ｒ７）年度	273,044,651（円）	1.会費収入	4,200,000 円
		2.収益	60,295,000 円
		3.市町村からの補助金等	208,454,651 円
		4.都道府県からの補助金	0 円
		5.国からの補助金	0 円
		6.その他	95,000 円
2026（Ｒ８）年度	307,150,000（円）	1.会費収入	4,200,000 円
		2.収益	87,750,000 円
		3.市町村からの補助金等	211,000,000 円
		4.都道府県からの補助金	2,200,000 円
		5.国からの補助金	0 円
		6.その他	2,000,000 円
2027（Ｒ９）年度	312,470,000（円）	1.会費収入	4,200,000 円
		2.収益	93,070,000 円
		3.市町村からの補助金等	211,000,000 円
		4.都道府県からの補助金	2,200,000 円
		5.国からの補助金	0 円
		6.その他	2,000,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2021（Ｒ３）年度	519,874,237（円）	1.一般管理費	8,927,676 円
		2.観光振興事業等	362,425,508 円
		3.観光地域づくり・ブランド確立	71,687,356 円
		4.収益事業	76,833,697 円
2022（Ｒ４）年度	616,349,247（円）	1.一般管理費	10,336,994 円
		2.観光振興事業等	433,411,394 円
		3.観光地域づくり・ブランド確立	80,403,259 円
		4.収益事業	92,197,600 円
2023（Ｒ５）年度	318,912,561（円）	1.一般管理費	11,093,971 円
		2.観光振興事業等	199,823,922 円
		3.観光地域づくり・ブランド確立	65,597,218 円
		4.収益事業	42,397,450 円
2024（Ｒ６）年度	237,972,437（円）	1.一般管理費	11,041,863 円
		2.観光振興事業等	97,212,709 円
		3.観光地域づくり・ブランド確立	86,498,881 円
		4.収益事業	43,218,984 円
2025（Ｒ７）年度	272,846,009（円）	1.一般管理費	1,402,936 円
		2.観光振興事業等	125,345,659 円
		3.観光地域づくり・ブランド確立	99,407,107 円
		4.収益事業	46,690,307 円
2026（Ｒ８）年度	308,000,000（円）	1.一般管理費	9,000,000 円
		2.観光振興事業等	180,000,000 円
		3.観光地域づくり・ブランド確立	45,000,000 円
		4.収益事業	74,000,000 円
2027（Ｒ９）年度	313,000,000（円）	1.一般管理費	9,000,000 円
		2.観光振興事業等	180,000,000 円
		3.観光地域づくり・ブランド確立	45,000,000 円
		4.収益事業	79,000,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

当ＤＭＯは、公益法人として、公益性の高い活動を実施しており、全事業のうち、公益目的事業が、職員の業務時間の割合でみると約 92%を占めている。これにより人件費を含む運営にかかる経費の大半を、佐世保市からの補助金で財源確保している。
あわせて、地域の官民の関係者との役割分担をした上で、着地型旅行商品の造成･販売など、観光地域づくりの一主体として個別事業を実施している。また、収益事業の主な財源として、駐車場管理運営を令和 6 年度から再開した（西九州自動車道 4 車線工事のため、駐車場事業は一時休止中であった）ほか、佐世保朝市の駐車場運営も受託している。

（１）行政からの補助金等
　① 佐世保市の補助金（事業費、運営費）
　② 国、県の補助事業（事業費）
（２）自主事業
　① 旅行事業（コンベンション事務局代行、着地型旅行商品、ふるさと納税返礼品等）
　② チケット販売（ハウステンボス入場券、九十九島パールシーリゾート水族館等）
　③ 物販事業（自社商品、受託商品）
　④ 委託事業（委託手数料収入）
　⑤ 賃貸借事業（駐車場管理運営）
（３）賛助会員の会費

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

佐世保市：

佐世保市の観光振興は、ハウステンボスと 2025 年３月に国立公園指定 70 周年を迎えた西海国立公園九十九島の二大観光拠点の知名度とブランド力を活用したプロモーションを展開するとともに、これらの観光地と周辺観光地の連携を重視した事業を進めています。

ハウステンボスと九十九島の中間に位置する中心市街地（滞在促進地区）は、全国的に注目が集まる賑わいのあるアーケードや国際クルーズ客船が訪れる港を有していると共に、商業施設や多くの飲食店、宿泊施設等が集積していることから、観光客の周遊滞在拠点としての可能性が期待されています。

また、佐世保ならではの世界文化遺産「黒島の集落」、日本遺産「鎮守府」や「三川内焼」、離島などのブランドを活用し、国内外へ情報を発信することで、認知度向上と観光客誘致が期待できます。

一方で、「海風の国」佐世保・小値賀観光圏の課題の１つに、観光消費単価が全国観光圏の観光消費単価を下回っていることが挙げられることから、観光客誘致と併せて、観光消費単価の向上が特に求められています。ナイトタイムエコノミーの推進や、宿泊施設の品質保証やサービス向上、高付加価値化の取組みを関係事業者と連携して着実に推進していくことは、観光客の滞在時間の延長、ひいては観光消費単価の向上の実現に向け期待が出来るものと考えています。

日本本土最西端となる本観光圏におけるインバウンドについては、その地理的優位性から東アジアからの誘客が主体となるものの、欧米豪並びに富裕層へのプロモーションも併せて求められています。「海風の国」のブランディングを象徴する外国人観光客向けのコンテンツとして、小値賀島・野崎島・宇久島等の「離島」が存在していることから、この離島のコンテンツについて磨き上げや、各地域が有する観光資源を一体化させ訪日外国人を含む観光客に対して多様な体験を提供すると共に、観光地、観光産業の再生・高付加価値化に向けて、宿泊施設等の改修をはじめ、観光地における面的ＤＸに取組むことで、本観光圏域の高付加価値化の仕掛けに繋げていくことが必要と考えています。

佐世保観光コンベンション協会においては、佐世保市並びに地域観光関係事業者と連携し、令和６年に、観光庁の「地域一体となった観光地・観光産業の再生・ 高付加価値化事業」の採択を受け、エリア一帯となって、「稼げる地域・稼げる産業」の実現を目的として佐世保市観光施設などの改修等の事業を行っております。

観光 DX の取組みとしては、観光庁の「全国の観光地・観光産業における観光 DX 推進に関するマーケティング強化モデル実証事業」に採択され、地域の事業者等と連携し、佐世保観光を体験できる商品の販売と購買データの取得を行っています。また、人流データや SNS 分析データの取得・分析を通じて、効率的なプロモーションと根拠に基づいた事業計画の策定にも取り組んでおり、今後、観光マーケティングデータを幅広く発信し、活用することで、広域圏全体の観光マーケティングがさらに強化され、圏域内の磨き上げによる魅力向上、外国人観光客を含む観光客や交流人口の拡大に繋がることを期待しています。

小値賀町：

小値賀町は、「暮らすように旅をする」をコンセプトに豊かな自然や資源、人などを活かした「アイランドツーリズム」に取り組んでいます。

平成 30 年には、野崎島が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録され、観光資源として活用しています。

今後、お客様に満足して滞在していただけるように、新たな体験プログラムやサービスの創出が必要です。

地域連携 DMO を中心として佐世保市と連携していくことで、圏域の魅力向上や掘り起しができ、国内客はもとより訪日外国人など多様な人が交流し満足できるような観光地域になることを期待します。

長 崎 県：

・佐世保市及び小値賀町は、長崎県の北部である県北地域に位置し、令和５年の県観光統計によると、観光客延べ数は県全体の約 21%、延べ宿泊客数は約 25%を占め、九州でも有数の集客力がある地域です。

・佐世保市は、九十九島やハウステンボスといった市を代表する観光地をはじめ、世界文化遺産「黒島の集落」や、２つの日本遺産「鎮守府」と「三川内焼」、佐世保バーガーやレモンステーキ等の「グルメ」といった魅力的な地域資源がある地域です。

・令和 6 年 3 月には、佐世保市が、観光振興羅針盤（令和６～９年度）を策定し、「持続可能な観光」「消費額拡大」及び「地方誘客促進」をキーワードにこれまで以上に質の向上を重視した観光施策を、DMO である（公財）佐世保観光コンベンション協会等と連携して進めていくこととされております。

・一方の小値賀町は、日本らしい島の暮らしや昔ながらの美しさに快適性を加え、心豊かに過ごせる宿泊施設として改修した古民家や、地元島民と触れ合いながらの本物のしま暮らしが体験できる民泊（農林漁業体験民宿）など、島の豊かな自然や資源、人を活かした、「アイランドツーリズム」に島ぐるみで取り組まれています。

・県全体においては、スポーツイベントの開催や大型複合施設の開業効果、東アジアを中心に外国人観光客が増加したことなどから、令和６年の県内主要宿泊施設の宿泊客数は、前年に比べ３．４％の増となっています。

・こうした動きを一過性のものとせず、持続可能な観光振興を図るため、佐世保市・小値賀町にも波及・拡大を図っていくことが重要であると考えています。

・当該 DMO においても、本計画にある地域住民の観光地域づくりに対する意識向上や参加促進も行いながら、「インバウンドの回復」、「国内交流拡大」、そして、「高付加価値で持続可能な観光地域づくり」を柱とした戦略に取り組むことで、更なる国内外からの観光客獲得や、滞在時間の延長による消費拡大が期待されます。
・佐世保市及び小値賀町がこれまで以上に密接に連携することにより、効果的な周遊環境及び宿泊を伴う長期滞在型の受入が可能な地域となることを期待します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	松尾　麻美
担当部署名（役職）	事業部企画課（課長）
郵便番号	８５７－０８６３
所在地	長崎県佐世保市三浦町２１番１号
電話番号（直通）	０９５６－２３－３３６９
ＦＡＸ番号	０９５６－２３－６７５０
Ｅ－ｍａｉｌ	asami.matsuo@sasebo-sight.com

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	長崎県
担当者氏名	松下　和生
担当部署名（役職）	文化観光国際部観光振興課観光まちづくり班（課長補佐）
郵便番号	８５０－８５７０

様式１

所在地	長崎県長崎市尾上町３－１
電話番号（直通）	０９５－８９５－２６４３
ＦＡＸ番号	０９５－８２６－５７６７
Ｅ－ｍａｉｌ	kazuo.matsushita@pref.nagasaki.lg.jp

都道府県･市町村名	長崎県佐世保市
担当者氏名	天羽　智揮
担当部署名（役職）	経済部観光課（主事）
郵便番号	８５７－８５８５
所在地	長崎県佐世保市八幡町１－１０
電話番号（直通）	０９５６－２４－１１１１
ＦＡＸ番号	０９５６－２５－９６８０
Ｅ－ｍａｉｌ	Tomoki.amaba@city.sasebo.lg.jp

都道府県･市町村名	長崎県北松浦郡小値賀町
担当者氏名	森　知佳
担当部署名（役職）	産業振興課
郵便番号	８５７－４７０１
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷２３７６番地１
電話番号（直通）	０９５９－５６－３１１１
ＦＡＸ番号	０９５９－５６－４１８５
Ｅ－ｍａｉｌ	mori-chika@town.ojika.lg.jp

（登録）【地域連携DMO】公益財団法人佐世保観光コンベンション協会

様式２

記入日：令和7年7月29日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
長崎県佐世保市、北松浦郡小値賀町
【設立時期】 平成15年4月1日
【設立経緯】
（例）③区域の観光協会がDMOに移行
【代表者】 辻　宏成（理事長）
【マーケティング責任者（CMO）】　辻　英樹
【財務責任者（CFO）】 宮地　秀郎
【職員数】 20人（常勤20人（正職員10人・契約職員10人・出向等0人）
【主な収入】
収益事業　5千3百万円、受取補助金　1億7千4百万円（R6年度決算）
【総支出】
事業費　2億2千7百万円、一般管理費　1千1百万円（R6年度決算）
【連携する主な事業者】
ハウステンボス（株）、させぼパール・シー（株）、西肥自動車（株）、
（株）十八親和銀行、佐世保市タクシー協会[法人14社・個人1組合]、
佐世保旅館ホテル協同組合[24施設]等

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

指標項目		2022（R４）年度	2023（R５）年度	2024（R６）年度	2025（R７）年度	2026（R８）年度	2027（R９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	131,200	80,000	96,000	100,000	120,000	140,000
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	61,558	80,944	100,230			
		(－)	(－)	(－)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	1,385	1,622	1,900	1,957	2,015	2,076
		(73)	(96)	(127)	(168)	(176)	(185)
	実績	1,547	1,829	1,847			
		(63)	(138)	(180)			
●来訪者満足度（%）	目標	92.0	93.0	94.0	95.0	95.5	96.0
		(53.9)	(54.5)	(55.1)	(55.7)	(56.2)	(56.7)
	実績	92.2	94.7	91.1			
		(－)	(－)	(90.9)			
●リピーター率（%）	目標	73.0	73.5	74.0	74.5	75.0	75.0
		(-)	(21.5)	(22.0)	(22.5)	(23.0)	(23.5)
	実績	60.1	59.7	58.8			
		(－)	(－)	(20.5)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

戦略

【主なターゲット】
福岡を中心とした北部九州　20～50代女性
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
①再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいたコンテンツの磨き上げ。
②宿泊率向上を図るとともに地域消費額の増額等による地域振興及び地域経済効果の向上を図る。

【観光地域づくりのコンセプト】
「海風の国」暮らしを育む海舞台
～浦々の四季で迎える西海物語～

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・ガストロノミーツーリズム事業
「九十九島ひらまさTOWN」
【受入環境整備】
・鹿町_自然を体感する周遊コンテンツ開発事業
・世知原_アウトドアコンテンツ造成事業
・高島_マリンアクティビティコンテンツ造成事業
・ガイド人材育成講座

【情報発信・プロモーション】
・佐世保コンテンツツーリズム推進事業
・ハウステンボス連携事業

【その他】
・観光DXマーケティング強化事業
・高付加価値化事業
・クルーズ観光促進事業
・朝市活性化事業

「九十九島ひらまさTOWN」

ガイド人材育成：海風ネットワーク